竜西だより

１２月号
2016年12月1日
竜王西小学校
児童数：297名
学級数：14学級

校長　富長　宗生

学校教育スローガン

学び きらきら　心 うきうき　行い どんどん

【４年福祉学習「みんなが幸せになるために」】

ふたつの「発表会」ごくろうさまでした！

先月１１月には、大きな２つの「発表会」がありました。ひとつは、１１月１２日(土)の「竜西フェア」での子どもたちの学習発表会。もうひとつは、１９日(土)の教育フォーラムでの竜西小ＰＴＡ本部役員さんによる本校ＰＴＡの取組発表でした。

どちらも見事なプレゼンテーションでした。お疲れ様でした。

【１年「あきまつり」】

【２年「駅のひみつを伝えよう」】

【３年「暮らしを支える町で働く人々」】

★子ども達の学習発表会「竜西フェア」★

全学年とも生活科・総合的な学習の時間で学習した事柄をまとめ、チームごとに練習を重ね、保護者の方や他学年の児童に向けてプレゼンテーションしました。

各学年学級通信での子ども達の感想を読むと、ドキドキしたけれど精一杯できた等で、きっと満足感や達成感を味わうことができたんだなとうれしくなりました。

【５年「環境に目を向けよう」】

【教育フォーラムでのＰＴＡ取組発表 】

★ＰＴＡ発表★

☜ 左の写真は、町公民館ホールでの発表の様子です。

本校の特色あるＰＴＡ活動について、谷口会長が分かりやすくプレゼンしてくださいました。

【６年「子どもの教育・戦争」】

２０１６年の最終月をいよいよ迎えます。子どもたちにとって、また、保護者の皆様にとって、２０１６年はどのような１年であったでしょうか？

私は「あっという間」というのが正直な思いです。子どもと接する仕事柄、“子ども時代”の充実度の高さに圧倒されているのもその要因かも知れません。子ども一人ひとりの旺盛な成長期のパワーには目を見張るばかりです。

さて、２学期末には個別懇談会を持たせてもらいます。短い時間ではありますが、担任と大切なお子さんについての情報交換や意見交流をしてください。よろしくお願いいたします。

竜王町の特色ある教育「英語特区」
英語を学ぶメリットとは

ご存知の通り竜王町は英語特区として外国語活動（英語）の充実に努めています。２学期からは新たにＡＬＴとしてキャンドラー・マリアン先生に金曜日をベースに来ていただいています。

どの学年の英語授業を見学しても、いつも楽しそうに元気に学んでいる子ども達の姿が見受けられ嬉しいです。

さて、改めて言うことでもないかも知れませんが、英語を学ぶ第一義はスキル獲得にあります。ますます国際化する社会で、有用なコミュニケーションツールの英語の獲得が目的です。

でも、決してそれだけではありません。外国語を学ぶことによって国際理解を深め、人として視野の広い大人になることも大切なねらいといえます。

その一つとして、背景となる文化がことばにいかに影響を与えているかを学びの中で感じとってほしいです。

日本語と英語の単語は決して一対一で対応しているわけではありません。

ことばによる世界の切り分け方が文化によって異なる好例が以下です。

12月行事

１日（木）移動図書館
２日（金）校内マラソン大会
３日（土）ＰＴＡ環境整備･通学路点検
（保体･環境･安全部）
５日（月）委員会活動
校内人権週間（～９日）
６日（火）暗唱ラリー
７日（水）なかまタイム
８日（木）たてわり遊び
９日（金）人権集会

１２日（月）学校評議員会
１３日（火）お話タイム
１４日（水）挨拶運動（青少年育成協議会）
フッ素洗口最終日
１６日（金）期末懇談①（１４：３０～）
全校下校（１４：００）
３～６年学び確認テスト（国語）
食育の日
１７日（土）ファミリー読書（～１８日）
１９日（月）期末懇談②（１４：３０～）
全校下校（１４：００）
３～６年学び確認テスト（算数）
２０日（火）期末懇談③（１４：３０～）
全校下校（１４：００）
３～６年学び確認テスト（理科）
２１日（水）期末懇談④（１４：３０～）
全校下校（１４：００）
給食最終日
２２日（木）終業式　　大掃除
２３日（金）＜天皇誕生日＞
２４日（土）冬季休業開始
～
１／１０（月）始業式

※毎週火・金曜日はＰＴＡによる校区内パトロール

子どもは母国語の単語の意味を、直接教えてもらうのではなく、自分で考えて学習している。しかし、大きくなってから外国語の単語の意味を学習する時には、たいていの場合、辞書で与えられる母国語の訳をその単語の「意味」として覚える。その時、実際には、外国語のその単語が、訳語として対応づけられた母国語の単語とまったく同じ範囲で同じように使えると思いこんでしまいがちだ。

例えば、日本語の動詞「着る」と英語の動詞「wear」とは同じ意味だ、と思っている人は少なくないだろう。しかし、「着る」と「wear」の意味は、それぞれのカバーする意味範囲のほんの一部が重なっているにすぎない。「着る」の対象は体の上半身を被う着衣に限定され、ズボン、くつ下などは「履く」し、帽子は「かぶる」し、指輪やアクセサリーなどは単に「つける」「する」と言う。一方、英語ではこれらはすべて「wear」の対象であるばかりか、化粧さえ「wear」の対象になるのである。

単に「着る」のほうが、「wear」より範囲が狭く限定的であるだけかというと、そうとも限らない。例えば、「着る」は身につける動作と身につけている状態を両方表すが、「wear」は身につけている状態のみを表し、身につける動作はまったく別の動詞「put on」を用いなければならない。

『学びとは何か』今井むつみ　岩波新書　P84 ～ P85